

お茶大家政 浅見千鶴子
県立新潟女短大幼教 ○金田 利子

1. 本研究は、発達の過程において重要な意味をもつ初期経験の効果について明らかにし、それが子どもの発達を助長し、教育の基礎となることをめざす。具体的には、従来の研究成果の上に立って、問題をつぎの3点にしぼってとりあげる。①初期要求不満事態の経験による効果の検証(実験Ⅰ) ②初期の認知経験による効果の検証(実験Ⅱ) ③経験を与える時期による効果の検証(実験ⅠおよびⅡ)。

2. 初期経験の効果を検証するために、成熟が、すみやかで、短期間に幼児から成熟までの間を観察することの容易な動物(白ネズミ)を用い、生体の初期に、ある経験を実験的に与え、成熟後にその効果を実験的に確める。上記の問題により二つの実験を計画し、実験Ⅰでは、41匹の動物に初期一定期間食餌および水分制限による飢餓と渇を経験させ、その効果を成熟後の行動(食餌反応)において検証し、実験Ⅱでは、48匹の動物を初期一定期間空間認知に有利な条件のもとに飼育し、その効果を成熟後の空間認知学習能力において検証する。また両者とも、経験を与える時期を実験的に調整し、その効果を吟味する。

3. 以上の結果、「要求不満事態の経験」は、成熟後の行動を、同一モチベーションにおいて、より多く解発させ、要求不満事態に対する抵抗力を強め、「初期認知事態の経験」は、その後の認知学習能力を高めるという効果をおよぼした。また、経験を与える時期によって、その効果の程度が異なることが示された。